

学校法人東北工業大学 中期計画 TOHTECH 2028

(令和 6(2024)年 4 月 1 日 から 令和 11(2029)年 3 月 31 日)

令和 6(2024)年 4 月

前文

私学を取巻く環境は、少子化の一層の進展により今後益々厳しくなると見込まれます。また、生成AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術の急速な発達、グローバル化の進展、気候変動等の社会環境が急激に変化する時代です。このような環境変化に的確に対応していくため、学校法人東北工業大学は、令和10(2028)年度を目標年次とする新たな中期計画“TOHTECH 2028”を策定しました。

東北工業大学は、「わが国、特に東北地方における産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する」という建学の精神をよりどころとして、大学のあるべき姿、進むべき方向として将来ビジョンを掲げています。

東北地方に位置する最も魅力ある工科系私立大学	
◆	豊かな知識と高度の技術を身につけた多様な人材を育成する大学
◆	持続可能な社会と環境を研究実践し、国内外に発信する領域横断型の大学
◆	地域に根ざし、地域のニーズに応え、地域から信頼される大学
◆	自主自立の精神を重んじ、未来に向けて発展し続ける大学

また、令和6(2024)年4月には東北工業大学は大学創立60周年を迎えることから、新たな60年に向けて令和3(2021)年4月に「ブランドビジョン」を策定し、新たなブランドスローガン「未来のエスキースを描く。」のもと、未来志向でチャレンジしていく姿勢を明確にし、InnovativeでImaginativeな人材育成を目指しています。

ブランドビジョン	
存在意義	「未来のくらしのエスキースを描く」ことを存在意義とし、
提供価値	「ひろく学び、知をつなぐ」場を提供する、
個性	「Innovative & Imaginative」な大学を目指します。

中期計画では、教育、研究、社会貢献、管理運営、施設設備、連携・交流の6つの領域ごとに、それぞれ取組み施策を掲げています。また、今回の中期計画では、領域毎に具体的な数値目標も掲げています。計画の推進にあたっては、本学の有する教育研究資源を十分かつ効果的に活かして積極的に改革を推進し、将来ビジョンの実現を目指します。

仙台城南高等学校は平成25(2013)年4月の校名変更以来、11年が経過しました。本校が魅力的な学校として更に認知され、生徒・保護者のニーズと著しく変化する社会環境に対応するために、次のようなビジョンを策定しました。

魅力ある教育で、未来社会を切り拓く生徒を育成する私立高校	
◆	生徒一人ひとりの資質、能力を引き出し、自立した人間を育てる高校
◆	地域社会に信頼、支持されるとともに地域社会の発展に寄与する高校
◆	東北工業大学をはじめとする高大連携教育と探究的な学びを推進する高校

仙台城南高等学校は、このビジョンを実現するため、5つの領域において方針・計画を策定しました。計画の推進にあたっては、目標の達成状況を定量的に把握できるように、点検・評価の充実を図り、より魅力ある学校づくりを目指します。

なお、以上の計画は、次期中期計画策定WG(大学教員グループ、大学事務グループ、高校グループ)を設け、それぞれのWGで十分に議論を重ねたものをベースに、多くの教職員が参画して策定したものです。この計画に掲げられたビジョン、施策を全教職員が理解し、目標達成に向け一丸となって取組みます。

学校法人東北工業大学 中期計画(TOHITECH2028) 計画一覧【大学部門】

：最重点施策

領域	基本方針		
	大項目	中項目	プラン内容
I 教育	多様な学生を受け入れ、多様で充実した教育体制のもとに、一人ひとりの能力を向上させて社会に送り出す時代に即した教育とその体制を拡充する		
	1. 学生受け入れ	(1) 効果的な入試広報戦略の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ブランディングに基づく大学の魅力発信 ・安定的な入学者の確保 ・留学生や社会人学生の受け入れ方針に基づいた広報活動展開
		(2) 入試選抜方法の検討・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新入試2025の評価 ・女子特別選抜の評価 ・2025改組に向けた入試制度の検討・実施・評価
	2. 教育の質保証	(1) 学生の能力(学士力)を伸ばす取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なアセスメント(コア科目のMR:試行・分析・実行)の実施 ・デジタル(録画)教材の活用率増加策 ・PBLの全学的推進 ・大学院の3ポリシーの見直しと改訂 ・多様な学生にあわせた教育内容や体制の検討
		(2) 学修成果の可視化	<ul style="list-style-type: none"> ・大学としての卒業研修の取り組みと成果の公表 ・各種施策検討におけるTableauの有効かつ効果的活用 ・アセスメントテストスコアを用いた共通学士力成長度の可視化
		(3) 定常的な評価・改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・教育満足度の向上(不満要素の抽出・分析・検討、退学要因の抽出・分析・検討等) ・課外活動(学内・学外)の参加促進 ・県外出身者のサポートのあり方検討
	3. キャリア教育・就職／進学支援	(1) キャリア教育の充実およびキャリア支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援スタッフの強化(特に配慮が必要な学生へのサポートの強化等) ・キャリア教育(キャリアデザイン)の充実 ・キャリアデザイン等での大学院進学への積極的啓発 ・大学院卒キャリアのメリットの浸透 ・キャリア支援に対する満足度評価と向上(受講意見の分析・改善)
	4. 教育体制の充実と強化	(1) 「ひろく学び、知をつなぐ」場の整備と推進	<ul style="list-style-type: none"> ・2025改組に向けた体制整備と実行 ・課程制や副専攻制の学び(ひろく学び、知をつなぐ)の価値を伝える卒業生等による講義の推進 ・学部間連携の推進
		(2) 未来の工大(組織改編等)の推進: 大学院との接続・連携を視野にいたした議論と実行	<ul style="list-style-type: none"> ・短中期の将来計画の策定と推進 ・中長期的な視点での将来計画の検討
		(3) DX/GX教育の推進と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・応用基礎レベル認定のための準備・申請・認定 ・受講意見の分析・改善

：最重点施策

領域	基本方針		
	大項目	中項目	プラン内容
Ⅱ 研究	学内外の研究者との横断的組織化を図り、先端研究、地域対応型研究、教育のための研究を推進する		
	1. 研究支援体制の強化	(1) 研究マネジメントの整備	・研究コンプライアンス、研究リスクマネジメント、データマネジメント、知的財産マネジメントの整備と推進
		(2) 研究環境整備	・研究費の戦略的配算の検討と実施 ・外部資金獲得者等へのインセンティブ付与の検討と実施 ・研究スペースの戦略的配分
	2. 大学院強化	(1) 研究科・専攻の充実	・学部改組にあわせた大学院整備 ・学部・大学院一貫教育の環境整備 ・定員増を見据えた大学院の拡充 ・大学院生の研究環境の充実
		(2) 大学院生増のための取り組み	・社会人・外国人留学生に対する戦略の検討と実施 ・早期卒業制度の整備と実施・推進 ・内部進学率の向上のための施策の検討と実施(入学後早期からの大学院進学への啓発、学部生の学会等への参加奨励と支援、シーズ発表会等への学生参加等)
	3. 学内外連携研究の拡充	(1) 連携研究強化	・SDGs研究実践拠点の推進と定着 ・研究所活動の推進と定着 ・自治体や企業等との共同研究・受託研究の推進
		(2) 戦略的広報・成果の可視化	・シーズ発表会の開催 ・各種フェア等への参加・出展 ・教員研究成果及び学生研修成果の可視化・戦略的広報
	地域ニーズの把握、本学の知的シーズとのマッチングおよびコーディネートを充実強化する		
	Ⅲ 社会貢献	1. 学内外連携の拡充	(1) 連携実践活動の体制整備と成果の可視化
2. 教育研究成果の発信		(1) 学生の学修成果の可視化	・学生版研究／活動業績のリスト化と公表 ・PROG成果の公表 ・卒業研修成果の外部発信
		(2) 教員の教育・研究成果の可視化	・授業及び研究紹介動画の制作・アーカイブ化 ・専門分野を表す研究室名と教員名研究室併記の検討
3. 地域連携や社会への研究成果の還元		(1) 研究実装体制の検討と整備	・連携協定締結の促進 ・大学発ベンチャーのさらなる支援体制整備と実現 ・URAや産学連携コーディネータ等の配置の検討
		(2) 実装先の企業や地域・社会との連携強化	・共同研究・受託研究の推進 ・共同特許出願の推進
		(3) 学生による社会参画のための体制整備と促進	・学生団体やサークルと社会をつなぐ窓口(接点)の整備 ・学生の活動の可視化と発信 ・アントレプレナーシップ教育の充実
4. 教育資源の社会還元		(1) リスキリング／リカレント教育／生涯学習／STEAM子ども向け教育等の検討と整備	・サテライトキャンパスの運用方針明確化と体制検討・整備・実施 ・市民公開講座／地域未来学講座のアーカイブ化 ・リカレント教育／履修証明プログラム等整備の検討

：最重点施策

領域	基本方針		
	大項目	中項目	プラン内容
IV 管理運営	効率的かつ機能的な管理運営体制を構築するとともに、健全な財政基盤を確立する		
	1. 経営・ガバナンス強化	(1) 運営組織体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の実態を踏まえた自律的なガバナンス・コードの見直しと毎年度の遵守状況の確認 ・私立学校法改正に対応したガバナンス体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◎理事・監事・評議員及び会計監査人の資格、選任及び解任の手続き等並びに理事会及び評議員会の運営のあり方の見直し ◎内部統制システム基本方針の策定 ・危機管理体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◎自然災害、感染症、不祥事等の発生に備え、如何に事業の継続を図っていくかについて検討 ・改組再編を踏まえた教学マネジメント体制の再構築 ・KPIに基づく自己点検評価の実質化 ・IRデータベースの拡充(収集蓄積の連携強化)と積極的活用
		(2) ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人東北工業大学ダイバーシティ基本方針に基づく取組内容の検討 ・ダイバーシティに関する現状分析(職階別男女比など指標となる数値の把握)及び研修や啓発活動を実施するとともにダイバーシティの取組状況を公表 ・ユニバーサルデザイン等、ダイバーシティに配慮したキャンパス整備を推進 ・ウェルビーイングを重視した職場環境の構築(ウェルビーイング経営) <ul style="list-style-type: none"> ◎ワークライフバランスに配慮するとともに多様な人材が活躍できる柔軟な働き方(テレワーク制・フレックスタイム制等)の仕組みの構築による教職員エンゲージメントの向上 ・ハラスメントに関する教育・管理体制の見直し等によるハラスメントの未然防止
		(3) DX推進と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・DXに関する外部研修への積極的な派遣を通じて、事務職員のITリテラシーの底上げ ・業務のデジタル化及び効率化を推進することのできるDX人材の育成 ・定型業務のRPA化、デジタル化、その他既存業務プロセスの見直しの更なる推進により、サービスの質向上と業務効率化の両立 <ul style="list-style-type: none"> ◎物品購入要求のデジタル化(最終使用率90%) ◎経費精算のデジタル化(最終使用率100%) ◎電子決裁の使用率目標(最終使用率90%) ・教員業績可視化データに基づき適正な教員表彰および教員評価により、教育研究活動のモチベーション向上と活性化
		(4) 長期計画(将来構想)の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想検討委員会を設置し、40年後の創立100周年(2064年)まで見据えた長期計画(TOITECHブランドビジョン100)を検討 ・「大学教員・高校教員・事務職員」それぞれ若手を交えた小委員会の設置 ・「収容定員・改組再編・キャンパス・施設整備・教員組織・事務組織・財政・基準人員・人事制度・研究振興基金の創設等」様々な観点での計画案の検討
	2. 大学ブランディングの推進	(1) ブランドビジョンの実体化	<ul style="list-style-type: none"> ・インナーブランディング推進のため、学内実体化に向けた取組を、ブランディング推進委員会で検討した基準に基づき選定し、計画的に実行 ・アウターブランディング推進のため、学外の認知・理解・共感・期待の向上に資する企画を、ブランディング推進委員会で定めた基準に基づき選定し、計画的に実行
		(2) ブランドビジョンの定着化	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランディングDAY等の実施を始めとする学内での定着化の取り組みを推進 ・ブランディング推進委員会で定めた評価指標・点検方法に基づき、毎年の取り組み状況および成果を自己点検・評価し、学生および教職員等に可視化して共有するとともに、ブランディングの強化に活用

：最重点施策

領域	基本方針		
	大項目	中項目	プラン内容
IV 管理運営	3. 財政基盤強化	(1)学納金収入の安定的確保	<ul style="list-style-type: none"> ・本学各種奨学制度等を踏まえた学費のあり方および学納金制度全般に関する検討(学部・大学院) ・同窓生子女の囲い込み策の検討(検定料の免除等) ・ターゲット層(女子入学志願者、外国人留学生受入、社会人入学者等)拡充の検討および計画作成
		(2)外部資金収入の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・私立大学等改革総合支援事業補助金の獲得に向けて、重点的に取り組むタイプを選定 ・施設設備整備関連補助金獲得に向けて、対象施設設備を洗い出し、申請計画を作成 ・研究シーズ等の積極的広報により、科研費等外部資金の受託事業収入や奨学寄附金の増加を図り、研究振興を後押しするとともに、ブランドイメージの向上 ・新たな寄付方式の展開および寄付メニュー(選択の幅)を増やすことにより、外部資金収入の増加(ふるさと納税型、クラウドファンディング、研究助成基金の新設)
		(3)予算執行および資金運用の適切性・効率性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・購入要求および各種経費精算のデジタル化の推進により、予算執行の効率化 ・リアルタイム予算執行状況確認システムの構築により、チェック体制の強化 ・予算の次年度繰越の方法と可能性について検討
八木山キャンパス整備基本構想に基づき、本学の教育研究に寄与できる教育環境を整備する			
V 施設設備	1. 長期整備計画の推進	(1)施設整備長期計画(将来構想)の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・学園全体の長期計画(TOYTECHグランドビジョン100)を踏まえて、今後の施設整備の方向性とあり方を検討し、施設整備長期計画(将来構想)の策定
		(2)次期施設整備基本構想の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の施設整備長期計画(将来構想)を踏まえて、現行整備計画(新棟2期)完遂後の次期施設整備基本構想を検討、策定
	2. ローリング計画の推進	(1)現施設整備基本計画の遂行(ローリング計画・新棟2期建設)	<ul style="list-style-type: none"> ・八木山キャンパス整備基本計画に基づき、ローリング計画及び新棟2期建設を着実に遂行 ・八木山キャンパス整備基本計画のうち新棟2期工事の部分について、建築費の高騰を考慮して建設計画の見直しを検討
3. ファシリティマネジメント	(1)既存施設設備の年次修繕計画策定	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設設備の修繕必要箇所の洗い出し及び老朽化進行状況の確認を行い、年次修繕計画を作成し、施設設備の長寿命化と保全を推進 	
	(2)環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・空調や照明器具の更改および再生可能エネルギーの利用により、カーボンニュートラルに向けた取り組みの推進 ・ISO14001の推進活動を通じて、教職員・学生の環境意識の高揚を図り、省エネルギー・省資源、廃棄物削減への取り組みを強化 ・事務室のレイアウト変更を行い、働きやすい環境を整備し、業務効率化やコミュニケーションの向上 	
	(3)学生満足度向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備に関する学生からの改善要望への対応検討チーム(WG)を設置し、キャンパスアメニティ向上のための具体案を取りまとめて、提案 ・BYODへの対応として充電スポットの増設及びICT環境の整備充実 	

: 最重点施策

領域	基本方針		
	大項目	中項目	プラン内容
VI 連 携 ・ 交 流	学外機関(高校・同窓会・後援会、国際交流協定先等)との連携強化を図るとともに、ブランド発信力を強化する		
	1. 高大接続連携先高校との連携強化	(1) 仙台城南高校との連携実質化と強化	<ul style="list-style-type: none"> ・KJ協議会を活用した実質的連携 ・ミスマッチを防ぐ取り組みとあわせた内部進学の実質化・強化
		(2) 高大接続連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続連携先高校との連携の実質化・強化と成果の評価
	2. 同窓会・後援会との連携強化	(1) 同窓会・後援会のニーズ把握と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・60周年を契機として繋がりの強化 ・ブランディング浸透 ・同窓会支部との交流と地方のニーズ把握
	3. 国際交流の推進	(1) 学生の国際的視野の醸成と交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の海外留学・視察・調査等に対する柔軟な支援 ・教育の中での国際的視野の醸成や取り組みの検討と推進
		(2) 教職員の交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の国際交流の立場と視点の明確化 ・教職員の長期/短期研修制度の活用推進と支援 ・国際交流協定先との実質的交流の促進
4. 大学間連携の推進	(1) 工大サミット参加大学間交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・工大サミット関連イベントへ教職員・学生の積極的な参加促進 ・工大サミットの取り組みについての学内周知強化(学内認知度を向上) ・工大サミットを通じて得た情報の学内共有(FSD研修会等) 	

学校法人東北工業大学 中期計画(TOHITECH2028) 計画一覧【高校部門】

：最重点施策

領域	基本方針		
	大項目	中項目	プラン内容
Ⅰ 教育	常に創意工夫に努め、生徒一人ひとりの能力を十分に引き出す教育を実践する		
	1. 基礎学力の定着指導の充実	(1)基礎学力の定着、そのための1年生導入期指導の充実	・スタディーサポートや、スタディーサプリの活用により、低学力層へのサポートを充実 ・学力Dゾーンの生徒は、放課外講習の義務化、大学への推薦条件にCゾーンの縛りをつけるなど、具体的な対策を検討
		(2)幅広い学習ニーズに対応する柔軟な教育の展開と教育課程の検討	・教育課程変更から3年目をむかえ完成年度となったことから、その中で見つかった課題をもとに科・コース・教科と連携し、見直しを検討
	2. 教科指導力の向上	(1)授業力(教えるから学ぶ授業へ)向上を図る	・授業づくり委員会を中心に公開授業や総合進学コースでのSDGs Dayなどで得た教訓をもとに、本校の生徒・教室に応じた授業・シラバスづくりに落とし込みを研究
		(2)授業改善につながる効果的な授業評価の実施	・授業アンケート内容・方法を全面的に見直しの検討
		(3)ICT教育の推進	・教育DXの推進化(教育データのルール化・ツール整備・利活用) ・生成AI利用基本方針の作成
	3. 2学科の教育内容の更なる充実・発展	(1)現在の取り組みを継続するための教員の共通理解と育成	・学年担当会議の定例化 ・担当教員間での勉強会の実施 ・地域企業との連携の充実
		(2)各コースの学びの分野について検討	・大学進学後を視野に入れた普通科目の充実を図るカリキュラムに基づいた教育の展開 ・学習意欲を喚起するような仕掛けづくり ・科学技術科における新たなコース、定数、教育課程等について検討
	4. 東北工業大学との連携	(1)テクノフォーラム、探究ミニカレッジなど、現行の取組の枠組みを継続実施する	・大学との多面的な連携を通じて、人類の直面する諸課題や学問の世界に対する知的探究心と学習意欲を一層向上させるために取組内容の工夫・改善を図り、合わせて進路意識のさらなる醸成につなげるためのシステムづくり ・各事業のねらいを再確認し、統廃合・新設 ・本校及び連携校の先取り履修システムの整備と検証
		(2)それぞれの事業における内容の質的充実を図る	
(3)WWL事業を契機として、大学講義の先取り履修に対する具体的システムの構築			
学習・生活・心身等の課題を抱える生徒も含め、丁寧な対応と支援を行い、個々の進路目標を達成させる			
Ⅱ 生徒支援	1. 基本的な生活習慣の定着指導の充実	(1)校則の見直しと校則の遵守指導の徹底	・生徒による継続的なルールメイキング ・時代に応じた校則等の見直し ・生活指導に対する教員間での共通理解
		(2)公共交通機関や自転車乗車時のルールやマナーの定着	・生活指導・生徒指導の見直しとブラッシュアップ
	2. 資格取得に向けた指導	(1)資格取得の指導強化	・資格取得に向け、生徒に対する意識付けや募集方法の工夫を検討 ・資格試験講習動画のオンデマンド配信検討(科学技術科)
		(2)実用英語検定の受検推奨(高1で3級、高2で準2級、高3で2級取得を目指す)	・英検受験の推奨と、合格に向けた指導の充実
	3. 進路指導の充実	(1)進路意識の早期確立	・キャリアガイダンスや各種進路行事の事前事後指導の強化
		(2)進路情報の積極的提示と効果的な進路行事の研究	・アカデミックインターンシップへの積極的参加と大学の学びを入試につなげる指導の強化
		(3)生徒の希望進路に応じた組織的な受験指導の徹底	・早期からの志望理由書・小論文・面接の指導と教員全体指導の確立
		(4)新たな進路開拓と公務員受験指導体制の確立	・就職や公務員希望者への早期な説明会と複数実施
	4. 多様な生徒への教育支援の充実	(1)学習支援センターの機能充実	・学習支援センターを中心に学校全体で取り組む特別支援教育体制の充実 ・校内外の関係機関と連携した相談支援体制の機能充実 ・ケース会や運営委員会等を活用した情報共有の促進 ・特別支援教育の理解促進のための校内研修の実施
		(2)支援教育プログラムの作成と実践	・発達上の課題のある生徒に対する支援プログラムの作成と実践 ・不登校・不適応傾向の生徒に対する支援プログラムの作成と実践 ・学習不振の生徒に対する支援プログラムの作成と実践 ・健康管理上支援の必要な生徒に対する支援プログラムの作成と実践

：最重点施策

領域	基本方針		
	大項目	中項目	プラン内容
Ⅲ 地域貢献	地域や外部機関および他校(他校種も含む)との積極的な交流を図り、開かれた学校を目指す		
	1. 国際交流、理解の推進	(1)異文化交流の推進と異文化理解のための活動強化	・WWL事業を通して、タイや台湾、アメリカの高校との交流 ・WWL連携校との定期的な情報交換 ・留学制度の整備
	2. 地域社会への貢献と協調の推進	(1)学校開放講座等の企画・実施	・学校開放講座、および小中学校への出前授業の実施
Ⅳ 環境整備	本校教育の充実のために教育環境を整備する		
	1. 教育環境の充実・推進	(1)高校グラウンド・武道館及び本館等の整備計画の作成	・改修、改築に係る整備計画の遂行
		(2)ICT教育推進に係る施設・設備の整備	・AppleTVの更改 ・体育館Wi-Fi強化(学校行事オンライン支援) ・オンライン時のレスポンス機能整備 ・WWLオンライン支援 ・オンデマンド教材のストックバンク整備(学習支援センターとの連携) ・黒板からホワイトボードへの更改 ・各教室のマルチBOX整備 ・Microsoft Teamsの運用改善
		(3)担当教員の配置、半年に一度の目視による点検	・教職員の点検作業の確立(女子共有施設の増築・トイレや更衣室はマスト・建屋ごとの改修も継続的に実施)
募集戦略の推進と城南ブランドの構築、および円滑な学校運営を推進する			
Ⅴ 学校運営	1. 生徒募集に向けた戦略的実践	(1)中学校、学習塾等への積極的な広報活動	・年間を通じた計画的な活動とWebページ・動画コンテンツの充実、SNSメディアの活用
		(2)オープンスクール、各種説明会・相談会の開催	・年2回のオープンスクール、5回の相談会を開催 ・生徒スタッフを100名程度 ・参加申し込みWeb出願システムを活用
		(3)Web出願システムを活用したDXの推進と入試制度の総点検	・入学手続き案内など冊子で作成していたものをダウンロード形式に変更、入試制度の総点検による改善
	2. 生徒が生き生き活動できる学校づくり	(1)学校行事・特別活動・生徒会活動の活性化とその環境整備と体制づくり	・学校行事のアップデート ・生徒主体の行事運営 ・部活動活性化と自主性育成 ・安全性確保のための全部活動校地内統括環境・体制づくり
		(2)課題解決に向けたアクションを取り入れた探究活動の拡大	・アクションを前提とした指導内容の検討 ・先進事例の情報共有
		(3)地域活動への参加者数を維持・拡大するための指導法の開発や担任団との情報・意識共有	・活動成果を評価するシステムづくり ・事前・事後指導内容の検討 ・市民センターや各種団体との連携の充実
	3. 校内外組織体制の充実	(1)学年会、教科会、科会の充実と情報共有	・毎日の管理職打合せ、定期的な校務幹事会の開催 ・分掌会議への事務職員の参加
		(2)危機管理の徹底と校務分掌、各種委員会の組織的な運営	・校内研修会の充実と年度初めの確認
		(3)教職員の適正配置とスキルアップと自己点検・自己評価にかかる面談の実施	・自己目標シートに係る校長面談(年3回)の実施とフィードバック
		(4)ハラスメント防止・いじめ防止対策などの各委員会の強化	・校内研修会の実施
(5)学校評議員会の充実と周辺団体(PTA・同窓会・後援会)との連携強化		・学校評価結果の公開と定期的な会議の開催	
4. 事業予算の管理・執行の徹底	(1)学校方針に則した事業計画立案と既存事業精査	・既存事業評価を定例化と次年度事業の立案(所要予算の算出を含む)を両輪とした事業計画のルーティン化	
	(2)教育及び学校生活に関する環境整備の年次計画化	・生徒数や男女比等を前提とした環境整備について、その優先順位を検討しつつ単年度計画、中期計画を立案・執行	

学校法人東北工業大学 中期計画(TOHITECH2028) KPI一覧【大学部門】

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和4(2022)年度	【実績】 令和5(2023)年度	【目標】 令和10(2028)年度
Ⅰ 教育	多様な学生を受け入れ、多様で充実した教育体制のもとに、一人ひとりの能力を向上させて社会に送り出す時代に即した教育とその体制を拡充する	①収容定員充足率(学部)	116.6%	112.2%	110%以上
		②教育満足度 (共通学生調査:授業の全体的な質の満足度で「どちらかといえば満足」以上の回答者割合)	88.8%	91.7%	92%以上 (5年間平均)
		③進路満足度 (共通学生調査:卒業後の進路先の満足度で「どちらかと言えば満足」以上の回答者割合 ※ただし進路未定者を除く)	進路満足度調査は未実施 (参考:就職満足度は95.4%)	95.5%	96%以上
		④改組の進捗	改組検討	改組検討 (カリキュラム)	学部完成
Ⅱ 研究	学内外の研究者との横断的組織化を図り、先端研究、地域対応型研究、教育のための研究を推進する	①外部資金獲得者数割合 (科研費分担含む、専任教員のみ、1件以上)	51.2% (58/113人)	49.1% (56/114人)	55.0% (63人:教員数114人と仮定)
		②大学院博士(前期)課程収容定員充足率	106.7% (参考:大学院全体 76.0%、 博士後期課程 25.0%)	125.0% (参考:大学院全体 84.4% 、博士後期課程 16.7%)	130%以上
Ⅲ 社会貢献	地域ニーズの把握、本学の知的シーズとのマッチングおよびコーディネートを実施強化する	①社会貢献活動情報の本学Webサイト(ニュース)への掲載件数 (地域・産学連携、研究活動等情報)	103件	【見込】 105件	120件以上 (年間)

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和4(2022)年度	【実績】 令和5(2023)年度	【目標】 令和10(2028)年度
IV 管理運営	効率的かつ機能的な管理運営体制を構築するとともに、健全な財政基盤を確立する	①長期計画(将来構想)の策定	未実施	未実施	策定
		②ブランドビジョンの個人活動反映者割合 (「時々している」以上の回答者割合)	未実施	教職員：37.2% 学 生：24.3%	教職員：60%以上 学 生：40%以上
		③事業活動収支差額比率	7.2%	【見込】 -3.7%	5.0%以上 (5年間平均)
V 施設設備	八木山キャンパス整備基本構想に基づき、本学の教育研究に寄与できる教育環境を整備する	①施設整備長期計画の策定	未策定	未策定	策定
		②新棟2期竣工	未着手	未着手	竣工
		③既存全施設の修繕計画策定	未策定	未策定	策定
VI 連携交流	学外機関(高校・同窓会・後援会、国際交流協定先等)との連携強化を図るとともに、ブランド発信力を強化する	①仙台城南高校内部進学率	22.5% ※城南高校3年生に占める本学進学者の割合	【未確定】	30%以上
		②高大接続連携先高校出身者の卒業率 ※令和6年1月現在 ・仙台城南高校 ・仙台三桜高校 ・仙台向山高校 ・気仙沼高校 ・白石工業高校	75% ※対象高校の平成29(2017)年度～令和元(2019)年度入学生の卒業率 (参考:ストレート卒業率71%)	【未確定】	88% (参考:卒業率の過去最高値:平成27(2015)年度の全入学生の卒業率:87.2%)

学校法人東北工業大学 中期計画(TOHITECH2028) KPI一覧【高校部門】

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和4(2022)年度	【実績】 令和5(2023)年度	【目標】 令和10(2028)年度
Ⅰ 教育	常に創意工夫に努め、生徒一人ひとりの能力を十分に引き出す教育を実践する	①学校評価における授業満足度	83.8%	71.6%	88%以上
		②アカデミックインターンシップ受講者の東北工業大学進学率	54.5%	81.4%	80%以上
		③大学講義先取り履修の受講者数(WWL)	未実施	未実施	10人以上
Ⅱ 生徒支援	学習・生活・心身等の課題を抱える生徒も含め、丁寧な対応と支援を行い、個々の進路目標を達成させる	①進学者数に占める大学進学者の割合	73.2%	【見込】 75.6%	85%以上
Ⅲ 地域貢献	地域や外部機関および他校(他校種も含む)との積極的な交流を図り、開かれた学校を目指す	①WWL海外連携校数	未実施	2校	4校以上
		②海外姉妹校数	2校	2校	4校以上
		③海外大学進学者数	1名	0名	3名以上
Ⅳ 環境整備	本校教育の充実のために教育環境を整備する	①校内点検	未実施	未実施	年2回
		②環境整備の実施と計画策定	未実施	計画策定	実施・完成

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和4(2022)年度	【実績】 令和5(2023)年度	【目標】 令和10(2028)年度
V 学校運営	募集戦略の推進と城南ブランドの構築、および円滑な学校運営を推進する	①入学定員充足率	83.8%	90.0%	100%以上
		②学校評価アンケートの以下3項目における「だいたいそう思う」以上の割合	84.7% (質問1)	83.0% (質問1)	90.0%以上 (質問1)
		<質問1> 部活動は活発に行われている	76.6% (質問2)	81.4% (質問2)	85.0%以上 (質問2)
		<質問2> 学校行事や生徒会活動は活発に行われている	66.6% (質問3)	61.6% (質問3)	80.0%以上 (質問3)
		<質問3> 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている			

学校法人東北工業大学 教職員基準人員

令和6(2024)年4月～令和11(2029)年3月

令和6(2024)年4月1日

区 分	大学 設置基準 ※1 上段:2025年度以降 下段:2024年度	基準人員 (定員充足率100%)	現教職員数 (令和6(2024)年4月)		学生・生徒数 (令和5(2023)年5月1日現在)			定員充足率別 大学教員 基準人員										
			基準人員 充足率	収容 定員	在籍者数 充足率	ST比 ※4	定員充足率 105%		定員充足率 110%									
							教員数	学生数 ST比	教員数	学生数 ST比								
大学教員	107(78+ α 計29) 109(80+ α 計29)	113	115	101.8%	3,040	3,410	29.7	113	3,192	117	3,344							
						112.2%					28.2		28.6					
	工学部					34+ α 36+ α			52		54	103.8%	1,540	1,681	31.1	52	55	1,694
																		109.2%
	建築学部					16+ α 16+ α			17		18	105.9%	540	603	33.5	17	18	594
			111.7%		33.4		33.0											
ライフデザイン学部	28+ α 28+ α	32	30	93.8%	960	1,126	37.5	32	32	1,056								
										117.3%		31.5		33.0				
総合教育センター AI教育推進室	+ α	12	13	108.3%	-	-	-	12	-	12	-							
高校教員 ※2		66	71	107.6%	1,095	813 74.2%	11.5	-										
事務職員		102	96	94.1%	※1(大学設置基準) ・上段は工学部 課程制移行後(令和7(2025)年度)の数値。 ・下段は令和6(2024)年度の数値。 ※2(高校教員) ・嘱託教員4名(工大進学支援員,就職進路指導,入試広報,学習支援)含む。 ※3(法人・大学事務職員) ・保健師2名,カウンセラー3名,課外活動指導系技術職員2名,技能職員1名は基準人員対象外。 ※4(ST比) ・教員1人当たりの学生・生徒数													
法人・大学事務職員 ※3	72	70	97.2%															
情報処理系技術職員	4	3	75.0%															
教育支援系技術職員	15	12	80.0%															
学修支援職員	5	5	100.0%															
高校事務職員	6	6	100.0%															
合 計		281	282	100.4%														
基準人員対象外(事務派遣職員)		8	8	-														

学校法人東北工業大学 中期財務計画

1. 事業活動収支計算書

(単位:百万円)

項目	年度	令和5(2023)年度 (一次補正後)	中期財務計画				備考	
			令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度		令和10(2028)年度
① 学生生徒等納付金		4,863	4,890	4,990	4,960	5,020	5,050	※1
② 手数料		96	90	90	90	90	90	
③ 寄付金		14	20	20	20	20	20	
④ 経常費等補助金		977	1,080	1,110	1,110	1,110	1,110	
⑤ 付随事業収入		277 ※3	110	110	110	110	110	
⑥ 受取利息・配当金		91	60	60	60	60	60	
⑦ その他		167	120	110	120	110	150	
⑧ 事業活動収入計		6,485	6,370	6,490	6,470	6,520	6,590	
⑨ 人件費		3,308	3,320	3,320	3,330	3,330	3,340	
⑩ 教育研究経費		3,073 ※4	2,710	2,450	2,480	2,550	2,500	※2
⑪ 管理経費		335	310	270	270	270	270	
⑫ その他		6	10	10	30	30	30	
⑬ 事業活動支出計		6,722	6,350	6,050	6,110	6,180	6,140	
⑭ 事業活動収支差額		▲ 237	20	440	360	340	450	
⑮ 事業活動収支差額比率		-3.7%	0.3%	6.8%	5.6%	5.2%	6.8%	5.0%以上(5年間平均)

※1 学生生徒等納付金は、令和6(2024)年度以降の入学定員充足率が大学学部1.1倍、高校1.0倍。

※2 令和7(2025)年度以降の減価償却額は、令和6(2024)年度見込額に新規取得固定資産に係る減価償却見込み額を加算して算出。

※3 令和5(2023)年度の付随事業収入額は、大型受託事業の追加契約額を含む。

※4 令和5(2023)年度の教育研究経費額は、八木山キャンパスローリング計画に伴う既存建物改修工事及び大型受託事業に係る経費支出を含む。

2. 内部留保資産状況見直し

(単位:百万円)

項目	年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度	令和10(2028)年度	備考
① 運用資産		15,643	15,044	12,617	10,750	9,196	9,139	
イ 有価証券		3,823	4,423	4,023	3,223	2,823	2,523	
ロ 第2号基本金引当特定資産		382	882	1,382	0	0	0	
ハ 第3号基本金引当特定資産		532	535	538	541	544	547	
ニ 退職給与引当特定資産		1,492	1,492	1,492	1,492	1,492	1,492	
ホ 減価償却引当特定資産		3,554	2,932	1,022	1,094	417	677	
ヘ 現金預金		5,860	4,780	4,160	4,400	3,920	3,900	
② 外部負債		90	70	50	1,030	1,950	1,830	
③ 流動負債		1,010	1,010	1,010	1,010	1,060	1,110	
④ 運用可能資産 ①-②-③		14,543	13,964	11,557	8,710	6,186	6,199	

① 運用資産：施設設備の拡充・更新計画や奨学金の創設など、目標や運用方法及び運用期間を定め保有している資産。

② 外部負債：借入金・未払金の合計額。

③ 流動負債：前受金・預り金の合計額(短期借入金・短期未払金を含む)。

3. 八木山キャンパス整備に係る概算工事費

(単位:百万円)

項目	年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度	令和10(2028)年度	合計
① 既存建物改修工事関連 等		1,300	500	250				2,050
② 5号館解体工事関連			500	250				750
③ 新棟2期建設工事関連				1,600	1,600	1,600		4,800
④ その他(6・7号館、図書館解体、什器、移設、外構 等)			150	70	970	340	120	1,650
計		1,300	1,150	2,170	2,570	1,940	120	9,250
充当 資金	自己資金	1,300	1,150	2,170	1,570	940	120	7,250
	借入金				1,000	1,000		2,000
計		1,300	1,150	2,170	2,570	1,940	120	9,250